

# オリックスのサステナビリティ

創業時よりオリックスは、事業活動を通じて新しい価値を提供し、社会に貢献することを基本としてきました。企業というのは利益を生むことが重要だと考えていますが、利益を生み出せば何でもよいわけではありません。社会に新しい価値を提供し、社会に必要とされる存在となることが重要であり、その結果として利益を生み出すことが企業の持続的な成長を可能にすると考えています。

オリックスでは、今後も事業活動を通じて社会に貢献することで持続的な成長を実現し、また、社会的な責任を果たしていきます。この「サステナビリティを推進する」という意思をより明確にするため、2019年9月に「オリックスグループ サステナビリティポリシー」を定めました。

## サステナビリティポリシーの目的

オリックスが、価値の創造による社会への貢献を実現していくためには、ステークホルダーと協働しながら、社会の変化を捉え、それを成長の機会へと変えていくことが不可欠です。

オリックスに成長の機会をもたらす社会の変化や、社会からの要請を理解する上で、私たちにとっての環境、社会、ガバナンス(ESG)の課題をより深く認識することが必要です。また、オリックスが絶えず新たな価値を創出し、ステークホルダーから「信頼」され「尊敬」され続けるためには、事業の意思決定にサステナビリティを考慮することが極めて重要です。

本ポリシーは、サステナビリティをオリックス全体に結び付けていくための原則を定めています。本ポリシーの実践により、オリックスが事業活動を通じて長期的に社会に貢献できると考えています。

オリックスの事業は多様であり、各事業が社会に影響を与える、または各事業が社会から影響を受けるサステナビリティ課題も多岐にわたります。そのため、後述の「サステナビリティの基本原則」は、多様なオリックスグループのすべての事業に適用できるように策定しています。この基本原則に加えて、各事業分野に固有のサステナビリティ課題についてリスクと機会の分析と特定を行い、事業運営に取り入れていきます。私たちが現在優先すべきと考えているサステナビリティ課題は後述の「各事業の優先課題」に記載しています。

## サステナビリティポリシーの適用範囲

本ポリシーは、オリックスのグローバルなすべての事業活動とそれに関わる全従業員に適用されます。オリックスは多様な事業を行っていることから、各事業部門は自身の事業に固有のリスクや機会を考慮しながら本ポリシーを実践します。

## サステナビリティの基本原則

社会の期待に応え、新たな価値を創出する企業として長期的な成長を実現するためには、サステナビリティ課題を考慮することが必須要件であると考えます。オリックスではサステナビリティを事業運営のすべての意思決定に結び付けていくことを目指しています。

オリックスの強みは、多様な事業展開とそれら事業間のシナジーです。強みをさらに増すためには、サステナビリティ課題がそれぞれの事業、さらにはオリックス全体にどのように影響しているのかを網羅的に把握し、対応することが必要です。そのために次のことに取り組んでいきます。

### 優先すべきサステナビリティ課題の理解

---

優先して取り組むべきサステナビリティ課題を特定し、その内容について理解します。

### サステナビリティ課題から生じる機会の追求

---

事業間の協働による社会課題解決への貢献など、サステナビリティ課題に対応し、解決することから生まれる新たな事業機会を追求します。

### サステナビリティ課題から生じるリスクの管理

---

グループ全体および個別事業の両面から、サステナビリティ課題をリスクの観点でも検討し、管理します。

### ステークホルダーエンゲージメント

---

すべてのステークホルダーとダイアログなどを通じてコミュニケーションを深め、企業活動における情報の透明性を高めるとともに、ステークホルダーからのフィードバックを企業活動に生かしていきます。また、オリックスのビジネスパートナーやサプライヤーに対しても本ポリシーの実践を奨励します。

### 従業員の意識の向上

---

本ポリシーに対する従業員の理解を深めるとともに、事業の中で実践するためのガイダンスを適時適切に提供します。これによりサステナビリティの優先課題に関する従業員の意識と知識の向上を目指します。

オリックスが目指す企業像として「EC21」にも定められているように、企業としての誇り、ステークホルダーの皆さまからの信頼、および社会からの尊敬は、オリックスの成長の原動力です。これらに沿って事業活動を行い、今後も成長していくために、オリックスは日々の業務において次のことを実行します。

## 自然環境への配慮

---

オリックスの環境ポリシーに定めるように、事業活動が環境へ及ぼす影響を把握し環境負荷低減に努めます。そして事業を通じて社会が直面する環境問題の解決に貢献します。オリックスでは、予防原則を用いたアプローチを環境問題に対して実践します。予防原則とは、「深刻な、あるいは取り返しのつかない被害のおそれがある場合には、十分な科学的確実性がないことを、環境悪化を防止するための費用対効果の高い対策を延期する理由にしてはならない」という内容で、「リオ宣言（環境と開発に関するリオ宣言）」で発表された27原則の一つです。

## 人権の尊重

---

オリックスは、世界人権宣言や、労働における基本的原則および権利に関する国際労働機関（ILO）宣言など国際的基準で定義されている人権を支持します。これらには、結社の自由、団体交渉権、強制労働の排除および児童労働の廃止が含まれますが、これらに限定しません。

## ダイバーシティの促進、および従業員の福祉への配慮

---

オリックスは、従業員のダイバーシティを尊重し、それぞれの能力や専門性を最大限に生かせる機会と職場環境を提供します。さらに、オリックスは事業を行う国・地域において、その文化や慣習を尊重し、環境に配慮し、経済・社会の発展に貢献します。また、安全で安心な職場環境を確保するとともに、一切の差別を許容しません。

## 高い倫理観の支持

---

オリックスの役職員は、すべての適用法令、規則を常に遵守し、公正な競争を行います。また賄賂の授受、反倫理的取引、反社会的勢力との取引を一切行いません。さらに、利益相反を生じさせる、またはその可能性のある一切の行為、関係または利害に関与しません。

## 各事業の優先課題

オリックスの事業は多様であり、各事業が社会に影響を与える、または各事業が社会から影響を受けるサステナビリティ課題も多岐にわたります。そのため、より意義のあるサステナビリティの取り組みや社会への貢献を推進していくためには、より社会に大きな影響を与える事業領域に焦点を当てていくことが重要であると考えています。

現在、サステナビリティにおいて優先課題として取り組むべき重要課題は下記のとおりです。また、これらの重要課題に取り組むことによって、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成にも貢献していきます。オリックスはサステナビリティ課題について継続して分析を行い、重要性を再評価して見直しを行います。このため、今後オリックスの事業の成長や新たな事業分野への進出に伴い、優先課題が変更になる可能性があります。

<div data-bbox="263 952 363 1048" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="239 1059 387 1095" data-label="Section-Header"> <h3>自動車事業</h3> </div> <div data-bbox="106 1120 518 1384" data-label="Image"> </div>	<div data-bbox="564 893 943 929" data-label="Section-Header"> <h4>環境に配慮した車の利用の推進</h4> </div> <div data-bbox="564 936 1133 1155" data-label="Text"> <p>移動手段としての自動車は、グローバル規模で温室効果ガスやその他物質の排出源としてかなりの部分を占めています。お客さまに対して燃費効率に優れた車両や運転方法を提供していくことで、オリックスはお客さまの環境への取り組みを促進し、低炭素社会への移行に貢献していきます。</p> </div>	<div data-bbox="1189 969 1295 1081" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1329 969 1452 1081" data-label="Image"> </div>
<div data-bbox="263 1568 363 1664" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="236 1677 387 1713" data-label="Section-Header"> <h3>不動産事業</h3> </div> <div data-bbox="106 1736 518 2000" data-label="Image"> </div>	<div data-bbox="564 1525 1037 1592" data-label="Section-Header"> <h4>不動産投資およびマネジメントにおけるサステナビリティの統合</h4> </div> <div data-bbox="564 1601 1133 1892" data-label="Text"> <p>不動産投資においては環境や社会的な側面を考慮することがますます重要になっています。サステナビリティ推進を検討しているテナントによって、環境に配慮した建物や、快適な空間づくりに配慮した建物に対する需要の増加が見込まれます。また、そういった建物は運営コストが低下することも見込まれます。このような配慮は建物の市場価値に影響することから、環境や社会的価値だけでなく、経済的価値の創出にもつながります。</p> <p>また、建物は、暖房・冷房、照明、電化製品、水道などの使用によって大量のエネルギーや水を消費します。オリックスでは建物の環境効率を改善していくことで、運営コストを最適化するだけでなく環境への負荷を減らしていきます。</p> </div>	<div data-bbox="1189 1267 1295 1379" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1189 1742 1452 1832" data-label="Text"> <p>特定のSDGs目標ではなく、すべての目標の実現に貢献できる可能性があります。</p> </div>



## 不動産事業

### 不動産マネジメントにおける社会への配慮

事業を行っている地域社会の発展やお客さまのより良い生活の実現のために、オリックスでは、不動産のアクセシビリティ(利用しやすさ)や安全性などの社会的な側面の考慮を重視しています。そういった取り組みは、ステークホルダーとのつながりを深めるだけでなく、社会から評価され、また社会から必要とされる不動産事業につながるものと考えています。



## 環境エネルギー事業



### 再生可能エネルギー事業への投資と運営

グローバル規模で気候変動への取り組みが進む中、再生可能エネルギーは急速に拡大、普及しています。太陽光、地熱など、再生可能エネルギー事業への投資と運営を推進していくことで、グローバルな課題である気候変動問題に貢献するとともに、長期的な事業の成長も実現していきます。



### 生物多様性の保全

土地の開発といった活動は、自然環境に負荷を与えます。問題を早期の段階で特定して、生態系を保護するため、新規のプロジェクトの計画と開発段階において生物多様性を考慮していきます。生物多様性とは、自然環境において生物や種が多様であることを指しています。これらの生態系によって、人間社会はさまざまな恩恵\*を享受しています。



\* 食糧、木材、そのほかの原材料を提供してくれる供給サービスに加えて、動植物、菌類および微生物による作物の受粉、土壌浸食の防止および水質浄化などといった調整サービス、レクリエーションや知的・精神的な刺激を提供してくれる文化的サービスなどがあります。

## 優先課題の特定プロセス

オリックスでは各事業領域において、環境、社会およびガバナンスに関連する事業固有の課題の重要性を分析し、オリックスとステークホルダーにとって重要な課題を特定しています。分析は、サステナビリティに関する国際的なフレームワーク、格付、各事業に関連する業界の優れた事例を考慮した外部の視点と、オリックスの現在と将来の事業を考慮した内部の視点といった2つの視点で実施しています。

特定プロセスは大きく4つのステップに分かれています。

ステップ1~3は、オリックスを取り巻くサステナビリティの状況を確認するものです。企業が社会から求められるサステナビリティとは何か、そして、社会からの要請に対して企業はどのような回答を提示しているか、について確認しました。この、社会からの要請と、企業の回答を照らし合わせることで、一般的に考えられるサステナビリティにおける課題と、その重要性の度合いを特定しました。

ステップ4では、一般的に考えられるサステナビリティにおける課題と、その重要性度合いを、オリックスの個別の事業活動の中でどのように捉えるべきかについて確認をしました。各課題とオリックスの事業活動との関連性を検証し、また課題の持つリスクおよび機会についても議論した上で、オリックスにとってのサステナビリティ課題とその重要性(優先度)を特定しました。

各プロセスの具体的な内容は次のとおりです。

**ステップ1 格付・レポート基準策定機関の要求事項を分析しサステナビリティ課題を特定**

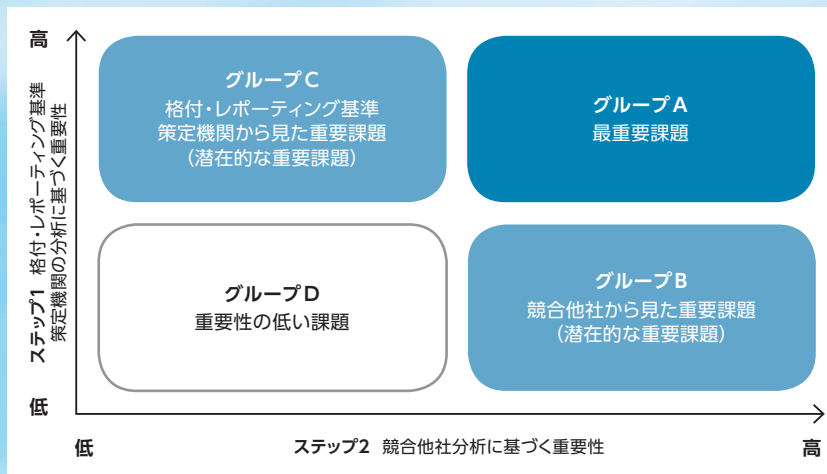
- サステナビリティに関する格付機関およびレポート基準策定機関が要求するサステナビリティ関連情報を分析
- 分析は、コーポレートレベルおよび各事業分野に関連する業界ごとを実施
- 分析により、コーポレートレベルおよび事業分野ごとにサステナビリティ課題を特定

**ステップ2 競合他社が認識しているサステナビリティ課題の分析**

- ステップ1で特定したサステナビリティ課題について、各事業分野の競合他社がどのように目標や優先順位を設定しているかを分析

**ステップ3 サステナビリティ課題を重要性に応じて分類**

- ステップ1およびステップ2で特定したサステナビリティ課題の相対的な重要性に応じて、サステナビリティ課題を4つのカテゴリーに分類



**ステップ4 各事業のサステナビリティ優先課題を特定**

- コーポレートレベルおよび各事業分野にて、ステップ3で分類したサステナビリティ課題について、事業との関連性(リスクと機会の観点)および重要性の評価を実施
- サステナビリティにおいて優先課題として取り組むべき重要課題を特定